

重症化予防プログラムの普及に向けた実態調査と市町村支援に向けた検討

研究分担者 樺山 舞（大阪大学大学院医学系研究科保健学専攻）

研究協力者 谷 智代（大阪府健康医療部保健医療室健康づくり課）

神出 計（大阪大学大学院医学系研究科保健学専攻）

研究要旨

現在重症化予防事業は、全国自治体において展開されはじめているが、実施に至っていない自治体も複数存在している。その未実施の要因を明らかにすることによって、重症化予防プログラムの普及とさらなる展開のために解決すべき課題や研修のあり方等への示唆を得ることを目的とした。ヒアリング内容から、重症化予防事業を効果的に実施し発展させていくための課題は以下の4つの観点：1．自治体内部の課題、2．自治体内部の連携、3．自治体外部等の課題、4．自治体外部との連携、に大きく分類された。今後課題解決に向けて、「国保部門と健康部門の連携強化」または「国保部門へ専門職を配置する」等により、事務職と専門職が連動して機能できる体制整備が必要であると考えられた。

A．研究目的

現在重症化予防事業は、全国自治体において展開されはじめているが、実施に至っていない自治体も複数存在している。その未実施の要因を明らかにすることによって、重症化予防プログラムの普及とさらなる展開のために解決すべき課題や研修のあり方等への示唆を得ることを目的とした。本検討は、大阪府の市町村支援の一環として実施し、自治体へのヒアリングを通して情報提供や助言、今後の方策を具体的に市町村事業担当者と共に検討した。これより各自治体の状況に沿ったバックアップを目指した。

B．研究方法

事業実施に向けた市町村支援の一環として大阪府と研究班によるヒアリングを実施した。

調査対象自治体：2018年4月に大阪府が実施した糖尿病性腎症重症化予防対策の取り組み状況に関するアンケートにおいて、重症化予防事業を実施していないと回答した11自治体とした。

ヒアリング実施者：大阪府健康医療部保健師、津下班分担研究者。また、各市町村を管轄する大阪

府保健所の保健師も同席した。

ヒアリング対応者：各自治体で重症化予防事業を担当する職員（事務職、保健師、栄養士等）1～6名（平均2.6名）によってヒアリング対応された。

ヒアリング期間：平成30年10月～12月

ヒアリング内容：

- 1）市の概要（人口、国保加入率、高齢化率等）
- 2）市の健康課題、医療費の課題（例：糖尿病対策の現状、特定健診保健指導の方法、データヘルス計画等）
- 3）人員数
- 4）保健事業に関する意識
- 5）連携に関して 自治体外部：医師会、かかりつけ医、地域関係機関、保健所 自治体内部：国保と健康部門、事務職と専門職連携、保健師職や専門職同士の連携や配置
- 6）スキル、研修体制、方法（例：抽出基準、評価）、マニュアル作成の有無
- 7）その他体制構築状況
- 8）具体的な連携の方法
- 9）委託に関する課題

以上の現状、困難事項、その他の意見や質問等を聞き取りやり取りした（各自治体平均2時間程度）。今後の検討事項の相談助言、情報提供を行

い、大阪府による市町村支援の方策についてまとめた。

C. 研究結果

未実施の 11 自治体のうち、了解が得られた 10 自治体に対してヒアリングを実施した。調査自治体の概要と今後のプログラム実施予定を表 1 に示した。

(表 1. 調査自治体概要)

保健所圏域	自治体 No	人口 (約 人)	国保課 保健師配置	糖尿病性腎症重症化予防プログラム 今後の実施予定 (保健指導実施予定者)
A	1	16,000	(管理職)	あり (健康課)
	2	5,000	-	あり (健康課)
	3	100,000	○	あり (業者委託)
B	4	100,000	-	あり (業者委託)
	5	10,000	-	あり (健康課)
	6	20,000	-	未定
C	7	120,000	○	あり (業者委託一部国保課か)
D	8	60,000	○	あり (業者委託一部国保課か)
	9	120,000	-	未定
E	10	120,000	-	あり (業者委託)

ヒアリングの結果得られた、未実施の理由、課題、困難等について、自治体内部・自治体外部、各連携の観点により分類して示す。

1. 自治体内部の課題

1 - 1. 情報不足

重症化予防事業自体の情報や知識

- 糖尿病対策推進会議を知らない、または連携方法を知らない (10 か所)
- 国版または都道府県版プログラムを知らない (8 か所)
- 医師会への相談の仕方：医師会へ本事業の相談したいと思っているが、ひな形や進め方を知らない (2 か所) (担当者に情報が伝わりにくい、異動した担当者へ情報が伝わらず、国や県からの通知や連絡を知らないことによる)
- プログラム組み立てや実施に際し、医療域レベルの保健指導の知識に関する不安 (1 か所)

保健事業や制度全般に関する情報

- 現行事業 (非肥満高血糖受診勧奨等) を工

夫することで、重症化予防事業へ発展し努力者支援制度の申請もできる可能性があるが、あまり知らない or そのようにして制度利用申請へもっていく意向や意識がない (2 か所)

- 市町村国保努力支援制度やヘルスアップ事業での交付金の流れを知らない、制度等の説明が十分に届いていない (1 か所)
- 少ない職員で多岐事業を実施するため、国からの通知 (特定健診、特定保健指導、保険者努力支援制度等) 等、全てを熟知することが困難 (町・村レベルの自治体への個別支援が必要) (1 か所)
- 研修や説明会へ出席しにくいことも影響しているか (地理的な事情、職員数が少ないため) (2 か所)
- 通達文書等を把握していない (そのため、事業推進に活用できない。異動も影響している) (2 か所)
- 努力者支援制度等情報が伝わっていない (大阪府からのアンケートや事業説明が行き届いていない) (2 か所)

医療資源、近隣自治体の取り組みに関する情報、その他

- 近隣自治体 (同じ圏域、同じ医師会の自治体) の状況や取り組み内容を知らない (知りたい) (7 か所)

- 地域の専門医の情報が分からない (2 か所)

1 - 2. KDBシステム、データ操作・分析関連 データ操作、KDBシステムに関する課題

- レセプトでの対象者の抽出の仕方が良くわからない (1 か所)
 - KDB は国保部署のため、健康課からアクセスできない (1 か所)
 - 人口規模が小さいため、KDBシステムみるよりも直接住民に聞く方が早い (1 か所)
 - 治療中断者の把握の方法 (KDB からの抽出の仕方が難しい、取り組む余裕がない) (1 か所)
- 「糖尿病性腎症重症化予防プログラム対象者リスト」データ (大阪府国保連から市町村へ提供中) について

- 使い方が分からない (使おうと試みたことが

ない)^(5か所)

- 単発的に活用したことはあるが、プログラムの推進実施のために常時活用はしていない(今回のヒアリングを機会に、活用して算出を試してみた、等も含む)^(4か所)
- 受け取ってはいるが、どのような対象が送られているのか良くわからない(ので使わず)^(2か所)
- リストの存在は知らない^(1か所)

1 - 3 . マンパワー不足、異動

人員不足、業務量

- 職員全体の削減、制度の変更等が相次ぎ、新しい事業は考えられない^(1か所)
- 国保課に保健師がいない。保健事業担当保健師等を国保に配置したいが、場所もない^(1か所)
- H30から国保課に保健師配置されたが、医療給付事業等もあり手が回らない実情^(1か所)
- 健康課の人員が少なく、重症化予防対策に保健師の関与が望めない^(1か所)
- 非常勤の保健師・栄養士が行うため、その人の力量に依存する。人材育成も継続して行いく^(1か所)

マンパワー不足に起因する課題(データ分析、資料作成、方法検討)

- データヘルス計画未策定、特定健診実施計画の内容を未把握(人数少なく多岐領域把握しきれない) 健康課題を保健事業を実施しながら感覚で抽出している^(1か所)
- データヘルス計画は業者丸投げし、内容が良くわからない^(1か所) 健康課と共有していない
- 国保連データ活用できず(時間不足の問題)^(1か所)
- 実施にあたり、医師会等へ説明の必要があるが効果的な資料を作成する時間が確保できない^(1か所)
- ターゲットをどうするか等、吟味したいが時間がとれない^(1か所)

1 - 4 . その他の自治体内部の課題

意識の問題

- 困難があったというよりは、実施する意向・

意識がなかった(という印象)情報不足、マンパワー不足、異動等の要因が影響。しかし、ちょうど実施の検討をしようとしていたので相談したい^(5か所)

方法の課題

- 医療機関とのやり取りにおいて、対象者の同意書(必要ということ自体を思いついていない)や、医療機関からの情報提供のひな形をどうするのか、またその際の料金の発生についての調整はどうなるのかが良くわからない^(6か所)
- 受診勧奨から実施しようと考えているが、効果的効率的なターゲット抽出基準を決めかねている^(1か所)

事業継続を見通した際の困難感

- 本当は直営での介入が住民にとって最も効果的な方法と考えるが、広く対象をとる場合のマンパワーや事業の将来的な維持継続を考えると難しい^(2か所) 事業維持の見通し、マンパワー不足)
- 委託とすることで、ますます保健師が成人保健事業と関わることがなくなり、今後のスキル維持も課題となるのではと懸念する^(1か所)
- 事業継続を踏まえた困難感:保健師を国保課に増員して自前で行いたい。医師会の希望でもある。しかし増員がない現状で将来的な事業の継続を鑑みた場合、何を自前とし、何を委託とすべきか迷う。
- 保健指導を自前とした場合の、保健師のスキルの担保も困難と想像する(異動があるため)(将来にわたる腎症の研修の機会の保証がない 今は、研修の機会が豊富であるが)^(1か所)

その他

- 市の方針で、大抵の事業は委託とせざるを得ない^(1か所)

2 . 自治体内部の連携

部門間連携の壁、役割分担の課題

- 健康課は母子対策等で多忙なため、協力を

- 求めにくい^(5か所)
- 国保課と健康課との連携が取りにくい、不十分^(4か所)(建物や部署が違うため、担当者同士の相談をしにくい。部長を通じての依頼のやりとりとなる)職員少数、場所が遠い、国保課の担当者によって意識や理解の問題がある)保健事業の通知は、健康課へそのまま全て丸投げのような形になっている等)
- 重症化予防や国保保健事業について、市の中で国保課か健康課のどちらがするか調整がつけられていない^(3か所)(保健事業は健康課が担って実施しているが、書類作成申請する時間がないなど)^(1か所)

専門職との庁内連携や配置がないことによる課題

- 国保担当課に専門職がないため、医療的な内容は難しい^(1か所)
- 国保に事務職員のみであることもあり、連携の具体的な進め方や、具体的な医療連携に関するイメージが十分ではない^(4, 10)(医師会の方が前向きに検討されており、対応が良好な環境であっても難しい)
- 事業対象者の決め方をどうしたらよいか事務職で判断できない(健康課と国保課の連携体制が不十分)^(1か所)

3. 自治体外部の課題

専門医が地域に不在、少ないことによる課題

- 市内に糖尿病専門医がない or 少ない^(4か所) 広域での検討が必要(市内に糖尿病専門医不在のため)だが、市単位では出来ない^(2か所)
- かかりつけ医から専門医へつなげる仕組みの構築をどうしたらよいか(専門医は市外の広域的な調整が必要であるが、できない)^(4か所)
- 市の健康増進事業や国保保健事業また保健指導のことを知らない or 否定的な医師がいるためかかりつけ医や医師会等の理解が得られにくい^(4か所)

- 地域性により、お金がなくて受診しない人が多い(他の対策が必要)^(1か所)

4. 自治体外部との連携

医師、医療機関との連携：広域性の課題

- 市内に専門医がいないこともあり、市外医療機関へのつなぎ方がわからない^(1か所)
- 医療資源が不足し(専門医がいない or 少ない)、市内だけで対策を完結できない(市町、圏域や県をまたぐ)^(3か所)
- 同じ医師会の市町村同士で足並みをそろえることを求められているが、連携が難しい(隣市の国保課に保健師が配置されていないので連携がとりにくい、隣市が取り組んでいない、などによる)地元で医師会のある市のみがスムーズに取り組んでおり近隣の小規模町村に共有されていない)^(3か所)

医療との調整の困難

- かかりつけ医との連携に関するひな形や様式の具体的見本がほしい、ひな形があると進めやすい^(5か所)
- どのようにかかりつけ医との連携を進めたらよいか、順番や段取りが分からない、ハードルが高い、難しい(様々なつながりがある中、段取りを間違えないように気を遣う等)^(4か所)
- 治療中でコントロール不良の人に対して、主治医に話をもっていけない(医療の領域に入りにくい)^(1か所)
- 医師会長への説明の前に、医師会担当理事の先生へ説明が必要、各所で同様に理解を得ることが難しい^(2か所)

業者委託の場合の連携に関して

- 医師会から“保健指導は市の保健師であればOKだが、委託業者の場合はどんな保健指導をされるか分からず不安なので受診勧奨のみで”といわれている(地域保健師への期待でもあるが、マンパワーが不足しており委託をせざるを得ない)
- 市が専門医リストを作成して住民へ提示することは難しい。医師会と相談の結果、一般

的な医療機関の一覧表を委託保健指導者へ渡して、一律に対象者へ提示するようと言われている（¹か所）

- 業者委託した場合、医療機関の紹介をどう提示するのが課題（¹か所）（地域性や病院の、文書化しにくい細やかな情報を対象者へ伝達できないため）

D. 考察

今回のヒアリングは、大阪府による重症化予防事業実施のアンケート調査において“実施していない”と解答した自治体に対して行った。しかしヒアリングを進めた結果、実質の取り組みの意識、段階に差が認められた。実際には高い意識をもって重症化予防対策に取り組んでいる自治体も存在していたが、それら自治体では例えば「かかりつけ医と連携した取り組み」を“どの程度をもって連携しているとするか”の判断によって「十分には連携できていない」と自己評価しているなどという現状が複数認められた。本状況は裏を返せば「実施している」と回答している自治体であっても、その実質的な認識や取り組みの程度は様々であり、府内全般においてその取り組み状況の把握と各地域の実情に沿った市町村支援が必要であることが推察された。

ヒアリングから、重症化予防事業を効果的に実施し発展させていくための課題は以下の4つの観点に大きく分類された。1.自治体内部の課題、2.自治体内部の連携、3.自治体外部等の課題、4.自治体外部との連携、である。各課題に対して、大阪府または研究班より実際に提供された支援内容および今後の対応策、検討事項を示す。

1. 自治体内部の課題

1-1. 情報不足

重症化予防事業自体の情報や知識の課題

- 国の通知文書や国版・府版プログラムや、HP情報など提供した。医師会相談への資料作成の支援へ（マニュアルを作成する際、通知文書やひな形等を資料として添付しておくような工夫が必要）
- 糖尿病対策推進会議の連携の仕方について

は、今回のヒアリングの場で大阪府より説明された。

保健事業や制度全般に関する情報の課題

- 現在の糖尿病対策事業を充実させるなどの工夫による実施等、大阪府と相談できる体制構築が必要（国保ヘルスアップ事業の活用がされていない等に対しては、国庫を十分活用できる様な情報提供や支援が必要）
- 医療職以外の担当者であっても健康課題や保健事業目的の理解が分かりやすい情報提供の方法を検討する
- 地理条件や人員の限界による研修会参加困難な市町村については、個別支援を行っていくとともに、情報提供方法についての検討を行う
- 今回でてきた制度情報への具体的質問に対しては、大阪府国保課より直接連絡し説明していく（今後も引き続き、市町村がもつ具体的な疑問・質問事項の把握、および相談窓口やアドバイザー的支援が必要）

医療資源、近隣自治体の取り組みに関する情報、その他の課題

- 大阪府レベルで、専門医リスト等についての対応を検討
- プログラム策定やマニュアル化について、地区医師会や専門医、有識者等への相談を推奨する
- 管轄保健所による、近隣市町村との情報交換、プログラムの共有、医師会対応のサポート
- 近隣市と同ペースで取り組みが進められるように、情報共有等の支援が必要
- 治療レベル対象者への保健指導に関する研修会を大阪府で検討していく

1-2. データ操作、KDBシステムに関する課題、対象者抽出ツールや方法について

- 治療中断者等の抽出ツールについて、大阪府の国保ヘルスアップ事業で検討しているところである

- 地域課題を明確にするデータ分析等については大阪府からの支援や外部サポートを検討し、例えば医師会へ説明に行く際の資料作成支援等を行っていく
- 地域の糖尿病を中心とした健診・レセプトデータを分析し、優先順位を決めるプロセスを大阪府より支援する(まずは、特定健診受診者から分析を開始)

1 - 3 . 人員不足、業務量、非常勤専門職の対応

マンパワー不足に起因する課題(データ分析、資料作成、方法検討)

- 委託の際は、丸投げとならないよう、地域特性に応じた保健事業の質を維持しながら実施できるように、留意事項の伝達や支援が必要
- 保健指導従事者研修には、取り組みの引継ぎや発展のためにも、非常勤職員も含めて人材育成を図る必要がある
- 委託による保健師のスキルや意識の維持に関する課題についても今後把握が必要
- データ分析や資料作成等は、課題 1 - と同様の支援(大阪府による抽出ツールを作成、府からの支援や外部サポートを検討)

1 - 4 . その他自治体内部の課題(意識、方法、事業継続の課題等)

- 医療機関との連携、病態の理解、指導のスキルアップのための研修会の継続的開催等、将来的な課題をみこした人材育成や体制構築が必要
- その他、1 - 1 . 1 - 2 . 1 - 3 . と同様の対応策を検討

2 . 自治体内部の連携：部門間連携・役割分担、専門職配置の課題

- 内部連携については、データヘルス計画の推進のためにも両課の連携が必要であることを認識してもらう
- 各課がすでにもつ知識やネットワークを活

用して効率的に事業をすすめるためにも、まずは庁内部連携することをすすめる

- 国保課と健康課の役割分担について、連携しながら分担していく形を推奨する(申請書類作成事務についての課題あり 小規模自治体)

3 . 自治体外部の課題

- 市内に専門医不在でも対応できるよう、医療圏域の専門医(糖尿病、腎臓病)の状況を管轄保健所と相談して把握する
- 地域特性等をふまえた受診勧奨、保健指導の体制を組む必要がある(未受診理由等の把握等)

4 . 自治体外部の連携：広域性の課題、医療との調整、業者委託の際の医療連携

- 専門医療機関との連携の調整などを支援していく仕組みや体制を府レベルで検討
- 専門医リストについても府レベルで検討
- 受診勧奨後、必要な患者がかかりつけ医から専門医へつながるための仕組みを考える(仕組み構築の際は、地域医師会と相談しつつすすめる):
- 大阪府・保健所管轄区域、または二次医療圏レベルでのかかりつけ医と専門医の連携体制の調整も必要(近隣主要市との情報共有と連携を、管轄保健所で進める)
- 複数市町村に1つの医師会である場合、それぞれの市町村対策を保健所がまとめつつ一緒に医師会との調整をすすめる
- すでに実施している近隣市町村もヒアリングし、医師会との調整等について足並みがそろえやすいよう情報提供する

E . 結論

ヒアリングより解決すべき課題として自治体の状況や資源等それぞれに認められた。その中で共通していた事項は、 地区医師会、専門医との連携に、 保健指導のスキルアップ、関連制度に精通するスタッフの育成、 事業を委託する場合の

精度管理体制であった。今後課題解決に向けて、「国保部門と健康部門の連携強化」または「国保部門へ専門職を配置する」等により、事務職と専門職が連動して機能できる体制整備が必要である。

(謝辞) 本調査の実施にあたりご多忙中にも関わらずヒアリングにご対応頂きました市町村事業担当の皆様、同席頂いた大阪府保健所保健師の皆様、またご支援くださった大阪府健康医療部の領家誠様、中谷健志様、島田秀和先生に心より感謝申し上げます。

G . 研究発表

1 . 論文発表

【原著論文】

- 1). **Kiyoshige E, Kabayama M, Gondo Y, Masui Y, Ryuno H, Sawayama Y, Inoue T, Akagi Y, Sekiguchi T, Tanaka K, Nakagawa T, Yasumoto S, Ogawa M, Inagaki H, Oguro R, Sugimoto K, Akasaka H, Yamamoto K, Takeya Y, Takami Y, Itoh N, Takeda M, Nagasawa M, Yokoyama S, Maeda S, Ikebe K, Arai Y, Ishizaki T, Rakugi H, Kamide K.** Association between long-term care and chronic and lifestyle-related disease modified by social profiles in community-dwelling people aged 80 and 90: SONIC study. *Arch Gerontol Geriatr.* 2019 ;81;176-181.
- 2). 真殿亜季, 由田克士, 栗林 徹, 奥田奈賀子, 中村幸志, 渡邊 至, 樺山 舞, 神出計, 三浦克之, 板井一好, 岡山 明. 特定保健指導の積極的支援介入前後の生活習慣の変化が減量効果に及ぼす影響. *総合健診.* 2018; 45(2); 374-381.

【著書】

- 1). 樺山 舞, 神出 計 PART4 さまざまな視点から見たフレイルとロコモ 9 . 看護とフレイル・ロコモ フレイルとロコモの基本戦略 (分担執筆) pp120-126 先端医学社 2019年1月30日
- 2). 樺山 舞, 神出 計 . 高齢者の在宅医療 在宅医療と多職種連携 行政・地域包括支援センターの役割 日本臨牀第76巻 増刊号5 (通巻第1144号) 老年医学(上) 基礎・臨

床研究の最新動向 2018年6月30日 初版
第1刷発行 pp481-485

【総説等】

- 1). **Kamide K, Kabayama M.** Implications of blood pressure variations in older populations. *Hypertens Res.* 2018(in press).
- 2). 神出 計, 樺山 舞. 高齢者高血圧の血圧管理基準 SPRINT 研究を考慮に入れて. *日本老年医学会雑誌.* 2018;55(4)539-546.Oct.
- 3). 樺山 舞, 神出 計. 保健師の立場から地域住民の循環器疾患予防を考える. *日本女性医学学会雑誌.* 2018;25(2): 239-243.
- 4). 樺山 舞, 神出 計. 特集 超高齢社会における高血圧診療 高齢期における高血圧と認知機能. *血圧.* 2018; 25(8)33-36.
- 5). 近藤純子, 尾ノ井美由紀, 樺山 舞, 秋山正子, 井上清美, 山内江美子 委託型地域包括支援センター看護職員を対象とした地域診断研修プログラムの有効性検討 . *大阪大学看護学雑誌.* 2019(in press)

2 . 学会発表

【国際学会】

- 1). **Higuchi A, Kabayama M, Kiyoshige E, Akagi Y, Akasaka H, Sugimoto K, Ikebe K, Gondo Y, Rakugi H, Kamide K.** Relationship between serum lipid profiles and carotid arteriosclerosis in community dwelling old population: SONIC study. *Hypertension Beijing 2018. Sep.20-23, 2018. Beijing.*
- 2). **Wada N, Kabayama M, Gondo Y, Masui Y, Yasumoto S, Sugimoto K, Arai Y, Ishizaki T, Rakugi H, Kamide K.** Interpersonal exchanges and Leisure activities are associated with Hypertension and Diabetes in community-dwelling old Japanese: the SONIC study. *Hypertension Beijing 2018. Sep.20-23, 2018. Beijing.*
- 3). **Kamide K, Kabayama M** Health Promotion in the elderly in Japan. Dec.4th 2018. The 5th Rajabhat University National and International Research and Academic Conference .(RUNIRAC V) Thailand.

【国内学会】

- 1). 神出 計, 樺山 舞, 樂木宏実 高齢者における降圧目標 第7回臨床高血圧フォーラム 2018年5月19~20日 京都
- 2). 大西勝也, 樺山 舞 チームで挑む高血圧管理座長 第7回臨床高血圧フォーラムプログラム 2018年5月19~20日 京都
- 3). 樺山 舞 禁煙の保健指導のポイント 第7回臨床高血圧フォーラム ランチョンセミナー 2018年5月19~20日 京都
- 4). 樺山 舞 看護職の立場から高血圧・循環器病予防を考える 第7回臨床高血圧フォーラムシンポジウム 2018年5月19~20日 京都
- 5). 樺山 舞 飲酒のリスクと介入 . 高血圧・循環器病療養指導士セミナー 日本高血圧学会主催 第7回臨床高血圧フォーラム 2018年5月20日 京都
- 6). 樺山 舞 飲酒のリスクと介入 . 高血圧・循環器病療養指導士セミナー 日本高血圧学会主催 第7回臨床高血圧フォーラム 2018年5月20日 京都
- 7). 車 千鶴, 樺山 舞, 赤木優也, 樋口温子, 和田直子, 杉本 研, 池邊一典, 榎藤恭之, 樂木宏実, 神出 計 . 高齢者における体格指数で分類した肥満と頸動脈硬化との関連 . 第29回日本老年医学会近畿地方会. 2018年11月17日. 大阪.
- 8). **Klinpuattan N, Akagi Y, Kabayama M, Srithumsuk W, Sugimoto K, Ikebe K, Gondo Y, Rakugi H, Kamide K. Characteristics of heart disease in community dwelling old peoples: SONIC study.** 第29回日本老年医学会近畿地方会. 2018年11月17日. 大阪.
- 9). **Srithumsuk W, Akagi Y, Kabayama M, Klinpuattan N, Sugimoto K, Ikebe K, Gondo Y, Rakugi H, Kamide K. Prevalence of stroke and associated factors in Japanese community dwelling old peoples-SONIC study.** 第29回日本老年医学会近畿地方会. 2018年11月17日. 大阪.
- 10). 樋口温子, 樺山 舞, 千葉 唯, 榎田晴美, 神出 計 . 特定健診受診者における翌年の体重増加率と血圧・血糖・脂質リスクの関連について . 第77回日本公衆衛生学会総会. 2018年10月24~26日. 福島.
- 11). 真殿亜季, 由田克士, 栗林 徹, 奥田奈賀子, 中村幸志, 渡邊 至, 樺山 舞, 神出 計, 三浦克之, 坂井一好, 岡山 明 . 就寝前2時間以内の夕食習慣を継続するとメタボリックシンドロームは悪化する . 第77回日本公衆衛生学会総会. 2018年10月24~26日. 福島.
- 12). 千葉 唯, 榎田晴美, 樋口温子, 樺山 舞, 神出 計 . 特定保健指導リピーターの特性 . 第77回日本公衆衛生学会総会. 2018年10月24~26日. 福島.
- 13). 吳代華容, 樺山 舞, 赤坂 憲, 山本浩一, 杉本 研, 佐藤倫広, 浅山 敬, 大久保孝義, 樂木宏実, 神出 計 地域在住の超高齢者における血圧特性 随時血圧と家庭血圧の違い : SONIC 研からの知見 第41回日本高血圧学会総会 2018年9月14~16日 旭川
- 14). 樺山 舞, 神出 計, 龍野洋慶, 赤木優也, 赤坂 憲, 山本浩一, 杉本 研, 樂木宏実 地域在住高齢者の3年後調査脱落率に関連する要因 (SONIC 研究): 血圧に着目した検討 第41回日本高血圧学会総会 2018年9月14~16日 旭川
- 15). 神出 計, 樺山 舞 教育セミナー 医療職のための臨床研究法講座 今何を研究すべきか 第54回日本循環器病予防学会学術集会 2018年6月22~23日 札幌
- 16). 樺山 舞, 神出 計, 榎藤恭之, 山本浩一, 杉本 研, 赤坂 憲, 増井幸恵, 新井康通, 石崎達郎, 樂木宏実 地域在住高齢者における年代別血圧値と3年後調査脱落率との関連性 : SONIC 研究 第54回日本循環器病予防学会学術集会 2018年6月22~23日 札幌
- 17). 和田直子, 樺山 舞, 榎藤恭之, 増井幸恵, 安元佐織, 杉本 研, 新井康通, 石崎達郎, 樂木宏実, 神出 計 地域在住高齢者の生活習慣病と対人交流・余暇活動との関連についての検討 : SONIC 研究 第54回日本循環器病予防学会学術集会 2018年6月22~23日 札幌
- 18). 樋口温子, 樺山 舞, 清重映里, 赤木優也, 赤坂 憲, 杉本 研, 池邊一典, 榎藤恭之, 樂木宏実, 神出 計 地域在住高齢者における血清脂質プロファイルと頸動脈硬化との関連 : SONIC 研究 第54回日本循環器病予防学会学術集会 2018年6月22~23日 札幌
- 19). 清重映里, 神出 計, 樺山 舞, 増井幸恵, 稲垣宏樹, 池邊一典, 新井康通, 石崎達郎, 樂木宏実, 榎藤恭之 70歳前後の地域在住高

齢者における認知機能の経時変化 (SONIC 研究) 第 60 回日本老年医学会学術集会 2018 年 6 月 14~16 日 京都

- 20). 樋口温子, 樺山 舞, 山本浩一, 杉本 研, 新井康通, 石崎達郎, 池邊一典, 権藤恭之, 樂木宏実, 神出 計 地域在住高齢者における血清脂質プロファイルと認知機能との関連性: SONIC 研究 第 60 回日本老年医学会学術集会 2018 年 6 月 14~16 日 京都
- 21). 和田直子, 樺山 舞, 権藤恭之, 増井幸恵, 安元佐織, 杉本 研, 新井康通, 石崎達郎, 樂木宏実, 神出 計 地域在住高齢者における糖尿病管理と社会的要因との関連 第 60 回日本老年医学会学術集会 2018 年 6 月 14~16 日 京都
- 22). 田中健太郎, 樺山 舞, 杉本 研, 赤坂 憲, 池邊一典, 新井康通, 石崎達郎, 権藤恭之, 樂木宏実, 神出 計 地域一般住民高齢者を対象にした血清尿酸と頸動脈アテローム性動脈硬化症との関連について SONIC 研究 第 60 回日本老年医学会学術集会 2018 年 6 月 14~16 日 京都

【講演・研修会等】

- 1). 樺山 舞 『みんなで考えよう! 地域の助け愛話・和・輪』 ~ 子どもから高齢者まで地域福祉施策の一体的な実施に向けて ~ 能勢町社会福祉協議会主催 能勢町共催 2019 年 2 月 10 日 淨るりシアター 小ホール 能勢町
- 2). 樺山 舞 面接技術(講義) 2018 年 10 月 14 日 高血圧・循環器病予防療養指導士セミナー(大阪) 大阪大学医学部医学科講義棟 A 講堂
- 3). 樺山 舞 糖尿性腎症重症化予防プログラム研究の現状と保健指導の実際 2018 年 9 月 10 日 公益財団法人大阪保健医療財団大阪がん循環器病予防センター主催 一般社団法人大阪府医師会共催 2018 年度行動変容推進事業フォローアップ研修会 大阪赤十字会館 3 階 301 号室
- 4). 樺山 舞 血糖値を下げる秘訣 新春企画! ~ 頑張るあなたに贈るお年玉 ~ 「健康カフェ」 2019 年 1 月 10 日 能勢町(健康増進課健康管理係)主催 能勢町保健福祉センター
- 5). 樺山 舞 『健康寿命と介護予防』 ~ いつまでも元気に生き生きと暮らすために ~ 2018 年 10 月 27 日 ひらかた聖徳円こもれび交流ホール ひらかた聖徳園訪問看護ステーション主催 枚方市
- 6). 樺山 舞 生涯を通した健康づくり 2018 年 5 月 16 日 大阪大学男女協働推進センター主催 交流会: 女性と健康 話題提供 男女協働推進センターコラボレーティブ・スペース